



芝山小だより

平成25年12月25日

12月増刊号

清瀬市立芝山小学校
校長 小池 雄志郎

<http://www.kiyose.ed.jp/>

児童の活躍から “書くこと、考えること”

—私の体験・主張発表会、「清瀬の100冊」読書感想文コンテストから—

11月30日（土）、清瀬市教育委員会・清瀬市健全育成委員会主催の平成25年度「私の体験・主張発表会」が清瀬けやきホールにて開催されました。今年も多数の出品作品がある中で、本校から8名の児童の作品が入選のうち2名が大賞に輝きました。そして先日、清瀬市教育委員会から連絡があり、清瀬市教育委員会主催の「清瀬の100冊」読書感想文コンテスト小学校高学年の部において、本校児童の作品が最優秀賞に輝きました。そこで今号では、それら大賞、最優秀賞に輝いた作品をご紹介します。

私の体験・主張発表会 <作文の部・大賞>

ボランティア体験を通して 5年生 男子児童

ぼくは、今年の夏、初めてボランティアに参加しました。「ボランティア」という言葉はよく聞くので、なんとなくわかっているつもりでしたが、具体的にどのような活動をするのかは知りませんでした。ちょうどそんな時、夏休みにボランティア体験が出来ることを知り、参加して見たいと思いました。

夏休みが始まる前に、ボランティアの説明会がありました。自分で活動先が選べるのですが、たくさんあってとても迷いました。考えたあげく、松山地域センターにある「松山ふらっとサロン」に決めました。「ふらっとサロン」とは、その名の通り、だれでもふらっと立ちよれる所で、そこで楽しくお茶を飲みながら話が出来ます。ぼくは、このような場所があることを今まで知りませんでした。利用する人の多くは、お年寄りの方だと聞いて、四年生の時にほう問し

た「けいせんホーム」を思い出しました。その時は、みんなでソーラン節をおどり、ホームの人たちに大変喜んでもらえました。そんな経験もあったので、親しみを持ち、お年寄りの方たちと触れ合うことの出来る「松山ふらっとサロン」にしたのです。ぼくの仕事は、お客さんにお茶を出したりお話し相手をしたりすることでしたが、最初は少しきん張っていたので、お茶を出すのがせいっぱいでした。お茶を出すと笑顔で「ありがとう」と言ってもらえたのでとてもうれしかったです。この日は、おぼんの時期だったので、いつもよりお客さんが少なかったようで、そのうち手があいてしまいました。ぼくは、思い切って声をかけてみようと思い、ギターを練習していたおばあさんに話しかけてみました。ぼくが、「ギター上手ですね。」と言うとギターのことをいろいろ話してくれました。おばあさんは

六十代になってからギターを始めたそうですが、まるでもっと前からやっていたかのように上手でした。ぼくにもギターをさわらせてくれたり、教えてくれたりしました。意外とむずかしかったです。おばあさんが小学生のころは、学校にオルガンしかなくて、ほかの楽器をそろえるために、みんなでないご取りをしたそうです。今はなんでもあるけれど、昔は、物がなくて大変だったことを改めて知り、物の大切さを感じました。

ぼくはサロンで、少ししかお手伝いが出来ませんでした。そこで仕事をしている人や来てくれたお客さんたちが、みな親切で優しくかったです。ボランティアの体験が出来て本当によかったです。そして、ますますボランティアにきょう味をもちました。また、来年も参加したいと思います。

私の体験・主張発表会 <学習発表の部・大賞>

手塚治虫を学んで 6年生 女子児童

【学習内容の抜粋】

手塚治虫は「未来人」（子供たち）の幸せを願い、たくさんのメッセージを残しました。作品の中には「命の大切さ」「自然保護」「生き物への賛歌」「科学文明への疑い」「戦争反対」などといったテーマが多く表されています。



学生時代に戦争を体験し、治虫氏は常に命の尊さを感じていました。そして、宇宙から地球を見る眼差しをもってみんなの手で大切な地球を守り、美しい地球をつくることの重要性を訴え続けたのです。

現在、私たちが生活する中で、地球温暖化や原子力発電の危険性、科学技術の進歩による社会のゆがみや自然や動物界の破かいなどが問題となっています。手塚治虫には未来が見えていたのかもしれないね。だから、彼が願った「幸せ」は今も漫画の中で生き続け、人々に感動を与え続けているのだと思いました。

私も夏休みにいくつかの作品に触

れてみましたが、漫画がこんなにも重く、力強く人々に訴える力をもっていることを知って、描く人のメッセージの大切さを学び、読者もその深さを感じ取りながら、楽しむことも大切なのだということも分かりました。

ところで、手塚治虫らが共同制作した、「未来の街」がテーマの壁画が清瀬市中里にある「仲光湯」の廃材から発見されたそうです。その作品が芝小にしばらく飾られていましたが、今はコロポックルにあります。こうして考えると、西武沿線に度々住居をかまえるなど、なぜか私たちの身近に感じることができるといえるのがうれしく思います。

もし現在も活やくされていたら、どんな漫画をプレゼントしてくれたいでしょうか。

参考資料 国語の教科書／「歴史をつくった人びと伝」(ポプラ社)

【当日の発表原稿から】

六年生になり、国語の授業で「手塚治虫」の勉強をしました。

私は今まで彼の作品を読んだことがなかったのですが、授業が進むにつれて偉大な漫画家だった「手塚治虫」をもっと知りたいと思い、教科書と図書館の資料をもとに、年表を使ってレポートにまとめました。すると、彼は西武線沿線を住居として、活躍し続けていたということが分かりました。「椎名町」にあった「ときわ荘」には、当時漫画家を志し、後に有名な作者となった人たちが寄り合って作品作りをしていたそうです。

また、二十年前程に、清瀬の銭湯から彼が仲間と描いた壁画も発掘され、芝小に寄贈された後、現在コロポックルに展示されています。そして新座市には「手塚治虫プロスタジオ」も設立されました。こうして私たちの身近に彼の足跡をいくつも感じることができ、なぜかほろしげな気持ちになりました。

代表作には「ジャングル大帝」「鉄腕アトム」「火の鳥」「ブラックジャック」など、各々に奥深いメッセージが込められ、それらはアニメにも紹介されています。このレポートを提出した後、テレビで「手塚治虫物語」がSMAPの草彅剛さん主演で放映されました。そこには、彼のスタッフを思いやる優しさや、作品にかたむけるひたむきな情熱があらわれるようにただよっていて、ますますファンになりました。

漫画をアニメに仕上げるには、原画を描き続けなければならない作業がコツコツとくり返され、感動の大作が私たちに届けられることとなるのです。私も絵を描くことが好きなので、レポートの中に、いくつかのキャラクターのさし絵を真似して描いてみましたが、とっても大変なことが分かりました。

漫画を初めて「アニメ」として世に送り出した「手塚治虫」の偉業は世界でも絶賛を呼び、その後のアニメーションの発展へとつながりました。最近では、アニメ映画で有名な「宮崎駿」さんが引退をし、私たちが幼い頃大好きだった「アンパンマン」の作者「やなせたかし」さんがこの世を去られました。

それらの作品は、見る人の目を楽しませ、心を豊かにし、夢を広げさせてくれます。彼らが残した宝物は、どんな時代になってもずっと愛され続けていくことなのでしょう。

「清瀬の100冊」読書感想文コンテスト〈小学校高学年の部・最優秀賞〉

「ガラスのうさぎ」を読んで 6年生 女子児童

戦争は、国と国が武器を使い、多くの人の命をうばいます。その戦争を体験した人の本はたくさん

あります。たくさんの中からは、私は「ガラスのうさぎ」を読みました。

東京大空襲で母と妹二人を失った敏子は、機銃掃射で父も失ってしまいます。そんな敏子が家族の

ために頑張っ生きてようとするお話です。

この話は戦争をしていた当時の人の気持ちがわかり感動する本でしたが、最も感動し印象に残ったことが三つあります。

一つめは、機銃掃射で父が亡くなってしまった場面です。敏子は、父と二人でいた時にいきなり小型戦闘機がとんできて、敏子の目の前で父が大量の血を流しているのを見ました。急いで病院に連れて行きましたが、死亡ということがわかりました。その時敏子は「泣くなんて恥ずかしい」と泣くのをとてもガマンしていました。もし、私が敏子の立場ならものすごく泣いてしまって病院に連れていくのが精一杯だと思います。こういうことが本当に強いということなのかなと思いました。

二つめは、敏子が都立第七高女に転校すると決めた場面です。お父さんのお葬式をした後、敏子たちの家は東京大空襲で焼けてしまっていたので、叔父の家に帰ることにしました。その時の敏子の気持ちは「わずかな時間でも勉強がしたい。明日、死ぬかもしれない命。最後まで一生けんめい生きたい。」と書いてありました。これを見て私は、すごいな、と思いました。なぜなら私たちは明日死ぬかもしれないなんて思いながら生活しているわけではありません。それなのに敏子は、父たちは死んでしまい、兄は特攻隊員なので一人ぼっちのはずなのに、「一生けんめい生きたい」というのは 家族への恩返しなのかなと思いました。最初敏子は死のうとしていましたが、くじけずに頑張っていること

ろは強いなと思いました。

三つめは敏子以外の人たちの優しさです。一人ぼっちになってしまった敏子を助けてくれる人がたくさんいました。友達や役所の方、親せきの人、知り合いの人たちに助けられて戦争中生きのびていました。人間は一人ではなく、みんな助け合っているんだなと思いました。

「ガラスのうさぎ」では戦争の愚かさや人との関わり、当時の人たちの生活がよくわかる本でした。この本を読んで、戦争のことをほんの少しですが知ることができました。今まで怖くて見られなかった、学べなかった戦争のことを学ばなければいけないなと思いました。

◇平成25年度「私の体験・主張発表会」

11月30日(土)、清瀬市教育委員会、清瀬市健全育成委員会主催の標記大会が清瀬けやきホールにて開催されました。ご紹介した大賞作品以外にも本校から次の児童の作品が入選し表彰されました。おめでとうございます。

<作文の部>

入賞 4年生 男子児童「初めて会った親せき」

入賞 3年生 男子児童「ぼくとたっくんのおばちゃん」

<ポスターの部>

入賞 6年生 女子児童「地球の未来を咲かせ続けよう」

入賞 3年生 女子児童「かんきょうにやさしくね」

<学習発表の部>

入賞 6年生 男子児童「円高と円安について」

入賞 5年生 男子児童「野球新聞」

◇平成25年度 学校保健委員会を行いました



12月10日(火)、本年度の学校保健委員会を行いました。テーマを「親力(おやちから)」で決まる子供の将来～保健室から見えてくること～とし、本校児童のアンケート調査結果から見えてきた生活習慣上の課題についてご出席の保護者の方とともに協議しました。

当日はご多用のところ学校医の下村洋先生（武蔵野総合クリニック）、對馬一仁先生（つしま眼科）、学校薬剤師の稲田みつる先生（緑の薬局）においていただき、下村先生からは生活リズムについて、對馬先生からはゲーム遊びのルール作りについて、稲田先生からは子育て支援の環境づくりについてお話をさせていただきました。アンケート調査の結果につきましては、1月号で触れたいと思います。

◇開校 60 周年記念集会を開きました

12月19日（木）、開校60周年を記念して卒業生の方からお話を聞く記念集会を開きました。

この日は、本校の学校運営連絡協議会委員を引き受けてくださっている堤肇さんと森田善朗さんにお話をさせていただきました。堤さんは芝山小の開校のころに在籍され、学校の近くにお店を開かれていたので当時の子供たちの様子をよくご存じです。また森田さんは本校の校歌制定時に在籍され、現在は清瀬市郷土博物館の館長をお務めでいらっしゃいます。

子供たちは今とは違った昔の芝山小のお話に聞き入っていました。そして児童代表の「今日は芝山小学校のことをたくさん知ることができました。ぼくたちも、60年後に120周年集会で後輩たちに芝山小学校のことをたくさん伝えられるよう、がんばって勉強したいと思います」という力強い言葉で会は締めくくられました。



◇青少協第四地区委員会・懇談会が開かれました



12月7日（土）、清瀬市青少年問題協議会第四地区委員会の地区懇談会が開かれました。

懇談のテーマは「付き添い・見守りネットワーク—通学路の安全を守りながら—」です。青少協第四地区委員会では平成18年度から小学1年生の下校に付き添う“付き添い隊”の取組み（1学期）と下校を見守る“見守り隊”の取組み（2学期以降）を実施しています。そして今年で8年目を迎え、発足時の小学1年生は今年中学2年生になっています。

青少協の皆様には、子供たちの安全を守りながらこの活動を通して広げてきた地域ぐるみのネットワークを、これからも大切につなげていきたいという願いがあります。そして懇談の中では、次のようなお声がありました。

「付き添い隊をやっていると、子供がいろいろなことをしている様子を見ます。これが面白くて本当に楽しいです。この楽しさはやってみないと分からないなあと思っています。」

「付き添いの最中、子供が先に走って行ってしまいう時があります。でも先に行って待っていてくれるんです。本当にかわいいです。」

「ある朝、ゴミ出しの日に荷物が多くて困っていると、付き添い隊で顔見知りの子が通りかかって、荷物を持ってくれました。うれしかったです。」

「住んでいる方面がわかっていると、災害があった時など、心配したり見守ったりすることができます。場合によっては引き取りなどで助け合ったりすることもできます。」

「子供は話したいことがたくさんあるようで、本当によくお話をします。それがとても楽しい。」

我が子ではないので余裕をもって話を聞いてあげられます（笑）」

「お母さん同士知り合いになれました。また、先輩のお母さんもいるので、子育てのアドバイスをもらえたり、失敗談なども聞けたりしてホッとします。」

「道ばたでいたずらをしていた子がいたので、顔見知りだったので声をかけたら、素直に謝ってくれました。」

「秋になって“付き添い隊から”“見守り隊”に変わり、大人が付き添っていない時の子供の様子を見るのも発見があって面白いですね。」



本校の保護者の方や地域にお住まいの御祖父様、御祖母様でこの取組みに協力してみたいとお考えの方は、芝山小副校長・鈴木（493-4312）までお問い合わせください。